

2022年10月6日

報道関係各位

一般社団法人 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan)

**EFPIA Japan「EFPIA Day 2022 特別記者会見」を開催
– 欧州の知見を活かし、日本国民の健康と社会の「あるべき未来の姿」を実現 –**

一般社団法人 欧州製薬団体連合会 (EFPIA Japan) (会長：岩屋孝彦) は、2022年10月6日、EFPIA Day 2022 特別記者会見を開催し、イノベーションを推進し日本国民や政府への貢献を強化するため、5つの基本戦略に沿って、日本の医薬品産業の持続的強化と市場の魅力度の向上を目指すことなどを発表しました。

EFPIA Japan は、日本国民の健康及び生活の質の向上のために革新的な医薬品を迅速に提供することを目的に、国内の医薬品産業に関連する諸課題について、政府等と協力し、政策提言及び啓発を行っています。設立 20 周年を迎えた本年には、業界団体として政策提言などの取り組みをさらに強化し、長期的な活動の継続性を持たせることを目的として一般社団法人に改組しました。国内外の環境が大きく変化し、パンデミックや戦争といった危機に直面する中で、新たな社会的課題の解決に向け製薬団体として今後どのように貢献できるのかが問われています。そのために、EFPIA Japan が目指す将来像を明らかにし、それを実現するための活動の方向性を示すため、5つの基本戦略を策定しました。

EFPIA Japan では、「国民の健康意識の向上により疾病の予防、早期発見、早期治療が進み、健康寿命が延伸すること」「病気や障害があってもそれぞれの人が自分らしく生活でき、あらゆる国民が共生できる社会となること」「世界中で開発された安全で有効な医薬品が、他国から遅れることなく国内で利用できること」「全国民が平等に最新の医療を受けることができ、健康な生活を送ることができること」の4つを、「あるべき未来の姿」として描いています。これらを実現するため、5つの基本戦略をもとに、日本の医薬品産業の持続的強化と市場の魅力度向上を目指します。また、基本戦略の実現に向け、レジリエンスの高い組織づくりを行うとともに、日欧の絆の強化に取り組み、EFPIA Japan として特色ある社会貢献を行います。

1. 健康リテラシーの向上への貢献

医療の質を考える上で、医療を受ける側の健康、医療に対する関心やリテラシーは極めて重要な要素であるため、EFPIA Japan は政府及び医療コミュニティと協力し、健康リテラシーの向上に積極的に取り組んでいます。

2. 国民皆保険の持続可能性と医薬品分野におけるイノベーションの推進の両立

現在の日本の制度の長所である、新薬が薬事承認後に速やかに薬価収載、保険償還される仕組みを堅持しつつ、財政面と市場の魅力を両立するための持続可能な仕組みが構築される必要があります。そのため、



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

EFPIA Japan では、企業が海外での上市や価格収載を待たずに日本で先行上市するインセンティブを提供することや、柔軟性のある評価の仕組みとしていくことなどについてステークホルダーとの議論を深めています。

3. 費用対効果評価の制度設計

費用対効果によって評価を行う医療技術評価（HTA）を薬価収載後の調整プロセスとして活用することについては、科学的にも制度運用的にもいくつかの課題に直面しています。EFPIA Japan は、日本において現在実施されている費用対効果分析だけでは不十分な医薬品の価値の評価のため、医師や患者等が参画するアブレイザル（評価）の実施が必要であると考えています。日本に先駆けて欧州が直面した課題への解決方法をどのように制度的に反映していくべきか、多様化する医薬品の評価をどのように考慮していくかを含めた制度的な検討に積極的に参画し、これを実現していきます。

4. 研究開発・薬事規制環境の改善

日本が革新的な医薬品及びワクチンの開発において、国際的にも魅力的で競争力の高い国であり続け、その結果として日本の国民が最新のイノベーションの成果を継続的に享受し続けることができる環境を実現すべく、定期的な治験環境調査を実施し、臨床研究中核病院のネットワーク化への働きかけ、リスクベースド・アプローチ、分散化治験の推進などの取り組みを継続的に行っていきます。

5. デジタル技術の活用と人材育成

限られた医療資源を効果的に配分するためには、医療の非効率を見直す必要があります。これにあたってデジタル技術が果たすことができる役割は大きく、デジタル技術を用いた医療の効率化、医療資源の適正配分及び医療アウトカムの向上のためには、データ基盤の整備や地域医療への組み込み等を含め、その活用の枠組みの形成を政府が主導していく必要があります。その一方で、日本の医療制度全体を見渡すマクロな観点を持ちつつ、実臨床の場においても患者を中心にしたミクロの観点も併せ持ち、かつ世界で加速する新たなテクノロジーシーズの活用を見据えられる人材こそが製薬業界と社会の間の良い懸け橋になることができることから、欧州等での経験を踏まえ、かかる人材を EFPIA Japan 内で育成します。

特別記者会見では、EFPIA 本部長 フベルトウス・フォン・バウムバッハおよび、EFPIA Japan 会長 岩屋孝彦より、日本医薬品市場の現在の状況や、医薬品産業の存在意義と将来に向けた課題についても説明しました。また、眞島 喜幸氏（特定非営利活動法人パンキャンジャパン理事長・一般社団法人日本希少がん患者会ネットワーク理事長）をゲストに招き、トークセッション「患者参画と医療の発展に向けた課題～患者さんの視点から」を開催。さらに、患者団体支援プログラム「PASE (Patient Advocacy Support by EFPIA Japan)」の一環として実施している、「第 5 回 PASE AWARD」の授与式を行いました。



European Federation of Pharmaceutical
Industries and Associations

欧州製薬団体連合会（EFPIA Japan）について (<http://efpia.jp/>)

2002年4月に設立された EFPIA Japan には、日本で事業展開している欧州の研究開発志向の製薬企業 23 社が加盟しています。2021 年の加盟各社の総売上高は、日本の製薬市場の売上の約 26%を占めています。EFPIA Japan の使命は、“革新的な医薬品・ワクチンの早期導入を通じて、日本の医療と患者さんに貢献する”ことです。EFPIA Japan は日本の医療向上に向けて政策決定者との対話を強化することを目指しています。

欧州製薬団体連合会 EFPIA（The European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations）について (<https://www.efpia.eu/>)

EFPIA は、欧州で事業を展開するバイオ医薬品産業を代表する団体で、欧州各国の 37 の業界団体、欧州で活動する 38 の大手製薬企業、多数の中小企業（SME）の直接会員により構成されています。新たな治療薬およびワクチンの創薬や研究開発、イノベーション、供給を可能にする環境の構築と、欧州経済への貢献を使命としています。

お問い合わせ先：

木戸口結子

EFPIA Japan 広報委員会

〒100-8268 東京都千代田区丸の内 1-6-5

バイエルホールディング株式会社

Tel: 03-6266-7757

Email: yuko.kidoguchi@bayer.com

EFPIA Japan

Tokyo Opera City Tower, 3-20-2, Nishi Shinjuku, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan